

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

PRESS RELEASE

2026.2.4

2026 ▶ 27

金沢21世紀美術館 2026年度展覧会・プログラムのご案内

2026年度に金沢21世紀美術館で開催される展覧会、主な芸術交流事業の概要をお知らせします

「まちに生きる」美術館として、4月からは「路上」をテーマにした企画展を、「伝統を未来につなぐ」美術館として、10月からは現代美術の継承をテーマにした企画展「今日から明日へ（仮）」を開催します。また、2年前の能登半島地震以来、復興支援につとめてきました。2026年度は「奥能登国際芸術祭 being」と連動した展覧会を開催します。

さらに、「参加交流型」美術館としてパフォーマンス等を通じ、人と人、地域がつながる場をつくってゆきます。26年度は、初めての大規模改修による長期休館（2027年5月—28年3月）と、「金沢まちなか芸術祭（仮）」の準備年にあたります。市内の全小学校の生徒を美術館に招待する「ミュージアム・クルーズ」は、「子どもたちとともに、成長する美術館」として開館以来続けているプログラムですが、26年度は通常の4年生に加えて、3年生の半分を招待します。

金沢21世紀美術館館長 鷺田めるる



2027年度は長期休館 まちをつかった企画を展開

金沢21世紀美術館は、空調や電気などの設備更新、修繕工事のため2027年5月から28年3月の間、長期休館いたします。この期間中、市内中心部を舞台に「金沢まちなか芸術祭（仮称）」を展開する予定です。旧日銀金沢支店のほか、美術館のある広坂エリアや石川県立美術館、国立工芸館のある本多の森エリア、市庁舎などを使い、季節ごとに会場を設定し、当館コレクションの展示やパフォーマンスといったプログラムを実施する計画です。休館中も市民や観光客がアートを楽しみ、まちを回遊する仕掛けを作ります。

休館期間

2027年5月—2028年3月

金沢21世紀美術館からの徒歩圏内

- ①他の展示施設 ②空いている建物
- ③広場、公園などの公共空間

通年会場

2027年5月—2028年3月

日本銀行金沢支店跡地

夏会場

2027年7月—9月

広坂エリア・中心商店街など

秋会場

2027年10月—12月

本多の森エリア・中心商店街など

冬会場

2028年1月—2月

日本銀行金沢支店跡地・
金沢市役所第2本庁舎など

金沢21世紀美術館

広報担当：落合、石川、吉富 〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802 MAIL press@kanazawa21.jp

※本内容は2026年2月現在の予定です。展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。最新の情報は直接お問合せください。



展覧会

同時代の多様な美術表現に出会う場を提供し、様々な価値観や未知の表現を紹介する展覧会を展開します。

路上、お邪魔ですか？

4月25日(土) – 9月6日(日)

路上には、自由と邪魔が同居しています。かつて日本には、公界と呼ばれる一定の制度や権力の及ばない自由な空間が存在していました。寺社の門前や宿場町に見られた領域は、移動する人々や芸能を受け入れ、文化や交流を育む装置でもありました。一方で路上は、単に自由や解放の象徴だけではなく、排除の論理によって居心地の悪さや不安定さも抱えています。

1986年に赤瀬川原平や藤森照信らにより結成された「路上観察学会」は、変わりゆく都市のなかで、路上を観察し、読み替える目を提示しました。それから40年を経た今年、本展では、現代美術から歴史的資料、テレビゲームや銭湯、大道芸までもを紹介しながら、路上は誰のものか?をキーワードに、路上の公共性を探ります。批評とユーモアの喧騒に溢れた、路上の芸術に出会いにきてください。



ギリヤークニケ崎 札幌公演(2018年8月)
撮影:権村佳弘

今日から明日へ (仮)

10月31日(土) – 2027年 4月18日(日)

長期休館を控えた美術館の現在地を見つめ直し、作品を未来へ継承することの意味を問い直す展覧会です。「今日」は現代美術における「現代」=「いま」、そして当館が開館してからの約20年を指し、「明日」は休館後から次の20年以降を想定しています。美術館は本来、百年、千年先まで作品を残す使命を担いますが、不確実な現代において、まず20年先まで作品をどう残すかという現実的な課題に21世紀の美術館として向き合います。本展では、修復や継承方法の検討を要する所蔵作品を中心に、ミクスト・メディアやメディア・アート、インスタレーション作品の保存にまつわる課題を具体的に提示し、作品とその修復や継承のプロセスを一体として示すことで、美術館のこれからの役割と姿勢を明らかにします。



ジェームズ・タレル《ガスワークス》1993
撮影:斎城卓

コレクション展 歩く、とどまる (仮)

5月23日(土) – 10月18日(日)

「歩く」あるいは「移動する」という行為を切り口に、当館のコレクション作品を紹介します。展示作品には、一步踏み出すという行為を起点に、外の世界を観察すること、思考や記憶の内側へと分け入ること、また、歩く人が位置する場所が生じる摩擦や、場所との関係性のなかで交渉する姿など、さまざまな「歩み」があらわれます。歩く、とどまる、というシンプルな行為から、観察、抵抗、記憶や時間への思考といった、多様な態度へとつながる実践を通して、人と空間、そして社会との関係性を浮かび上がらせます。

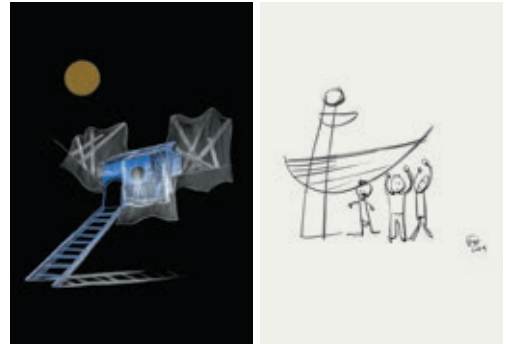


3
ジュン・グエン=ハツシバ《メモリアル・プロジェクト ナ・トラン、ヴェトナム:複雑さへー勇氣ある者、好奇心のある者、そして臆病者のために》2001
© JUN NGUYEN-HATSUSHIBA, courtesy: Mizuma Art Gallery, Tokyo / the artist Commissioned by Yokohama Triennale 2001

再生、能登と共に (仮)

9月8日(火) – 2027年 4月18日(日)

能登半島地震から2年、被災地は今なお復興の途上にあります。2026年度は、開催を見送った奥能登国際芸術祭に代わり、「奥能登国際芸術祭 being」として新規の作品制作は行わず、過去に制作された一部の作品を公開しています。本展では、同芸術祭出品作家で当館所蔵作家でもある牛嶋均とさわひらきを取り上げます。甚大な被害を受けた両者の作品は、公開の目処が立っていません。作品を通して能登と関わり続ける両者が、被災地の今と向き合い、自身の作品の再生とともに能登の未来を考えます。



4 | 5
左: さわひらき《Kuu / black》2023 © SAWA Hiraki
右: 牛嶋均《2023年のよるこびの瞬間》2024 © USHIJIMA Hitoshi

アペルト21 野村由香 黄金の川

4月4日(土) – 8月23日(日)

野村由香は、日常生活や社会、自然に通底する根源的な力に関心を寄せ、現場での観察や介入を通して、その作用やベクトル、そこに流れる固有の時間を、彫刻やインスタレーションとして可視化してきました。本展では、犀川で採取される「砂金」に着目し、新作を発表します。



6
野村由香《繰り返される営み》2019
撮影: 高嶋清俊

NEUTRAL COLORS

9月15日(火) – 2027年 4月18日(日) (予定)

NEUTRAL COLORS (ニュー・カラー) は、独立した出版社であり、発行する雑誌であり、印刷製本所の名前でもあります。本展では、それらが有機的につながりながら、個人的な体験や創作、記憶をリソグラフなどのハンドメイドな印刷手法を交えながら唯一無二の誌面で発信し続けるNEUTRAL COLORSの取り組みそのものを紹介します。



7
撮影: 足立涼

芸術交流事業

市民をはじめ、多様な価値観や背景を持つあらゆる人々が主体的に参加できる事業を実現し、美術館を介して、人と人、人と地域が有機的につながっていく、出会いと交流の「場」を共創します。

アグネス吉井 | 場所に振り付けられる?? (仮)

5月、11月(予定)

アグネス吉井は500本以上の短いダンス動画をSNS上に公開している2人組のユニットです。彼らのダンスは、地面の傾きや道の交わる角度、物の形状や手触りによって振り付けられ、目の前の風景に宿っている面白さを引き立てます。今回、金沢21世紀美術館に初上陸し、新たな映像作品の創作・発表をします。合わせて、彼らの創作のプロセスをたどり、「場所に振り付けられる」感覚を体験するワークショップを実施します。



アグネス吉井

8

パフォーマンス・シーズン:連鎖する鑑賞

10月 - 11月(予定)

多様なパフォーマンスとの出会いをきっかけに、鑑賞のあり方そのものが変化していくシーズンです。一つの演目を目的に訪れるだけでなく、同じ時期に行われるダンス、演劇などの様々なパフォーマンスやワークショップ、対話といった出来事に触れながら美術館を巡ることで経験が連なり、次に出会う作品や展示をどう見るかという視点に静かな影響を与えていきます。一つの鑑賞が次の鑑賞へと繋がっていく時間が美術館の中で立ち上がります。



2019年度「まるびい Art Complex」の様子

9

PANCETTA「縁→遠→演→円→延」GOÉNプロジェクト

9月 - 2027年3月

「生きることを面白い」をテーマに掲げるパフォーマンス・ユニットの滞在制作活動を行います。昨年度は「演劇に興味がある/美術館に興味があるが、あまり行かない」人たちと出会うため、市内調査や館内ワークショップを行いました。そのご縁をもとに、今年度は人それぞれの「当たり前」について、見つめ直す活動をさまざまな場所で実践します。その成果として、多世代で多様な人たちが演劇的な創作発表を美術館で行い、新たなご縁をつむぐ機会を設けます。



ワークショップ「あなたの当たり前、わたしの当たり前」活動風景
(2025年12月)
撮影:中川暁文

10

市民美術の日 オープンまるびい 2026

11月3日(火・祝)

金沢市民が美術に親しみ、豊かな心を育む機会として、主催展覧会を無料で観覧できる日。「丸い美術館=まるびい」がより開かれるよう、「オープンまるびい」と題して、当館で活躍するボランティアメンバーや地域の方々、美術館スタッフが協力し、大人から子供まで多世代の人々が楽しめる場を作り、様々なプログラムを予定しています。



11

市民美術の日 オープンまるびい 2025の様子
撮影：中島悠輔

劇的ユースプラザ (仮)

通年

15～20歳のユースを対象に、舞台芸術と出会う体験を支援するプログラムを実施します。シアター21を中心に、同世代が集い、舞台鑑賞やその背景に触れながら交流する時間を通じて、舞台芸術に親しむ機会を創出します。ユースは、映画・舞台・演劇・音楽など様々な舞台芸術とそれに関わる多様な仕事やその背景に触れます。舞台に関することを共有する仲間と出会うため、新たな視点や刺激を得られる場となっています。



12

劇的ユースプラザ(仮)の前身「劇的!バスツアー2025」の様子

2027年度の長期休館を受けて小学3年生のおよそ半数も招待

金沢市内小学4年生全児童および小学3年生約30校招待プログラム

ミュージアム・クルーズ

6月 - 2027年1月(予定)

金沢市内の小学4年生が作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」と一緒に展示作品をはじめ美術館全体を楽しむプログラムです。2027年度の長期休館を受けて今年度は市内のおよそ半数の小学3年生も招待します。

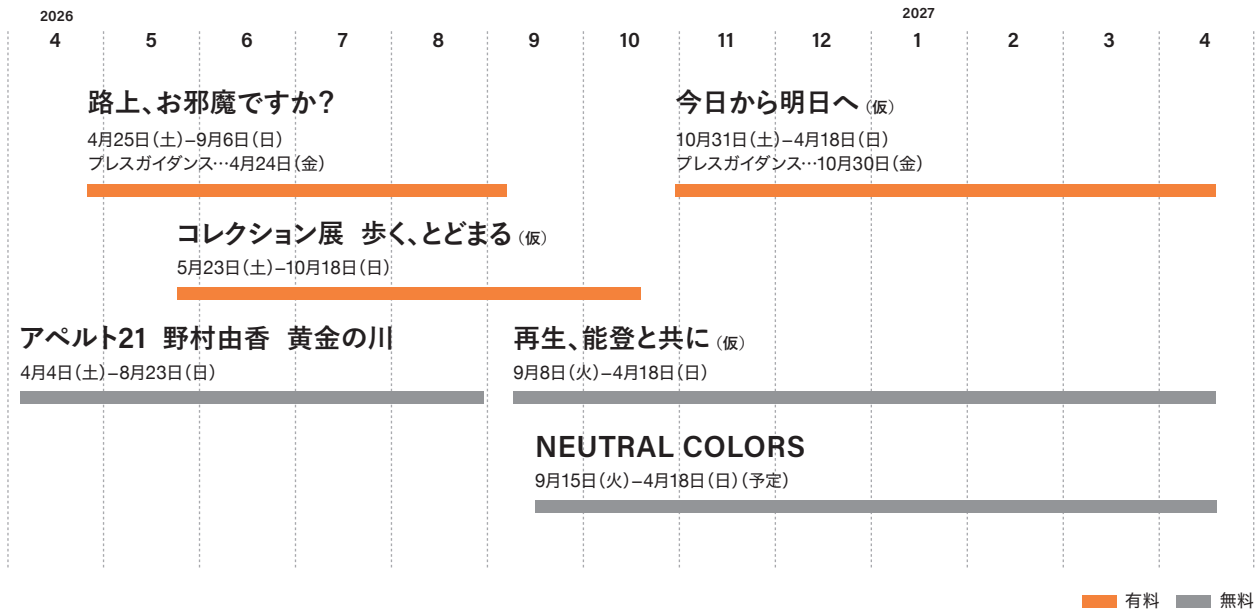
なお、残りの学校は2028年に小学5年生でお招きします。



13

2025年度「ミュージアム・クルーズ」の様子

展覧会スケジュール



料金表

展覧会名	会期	料金 (カッコ内:特別展WEB販売料金)				団体料金 (20名以上)		
		一般	大学生	小中高生	65歳以上	一般	大学生	小中高生
特別展「路上、お邪魔ですか?」	4月25日(土)–9月6日(日)	1,200円 (1,000円)	800円 (600円)	400円 (300円)	1,000円	1,000円	600円	300円
特別展「今日から明日へ (仮)」	10月31日(土)–4月18日(日)	1,200円 (1,000円)	800円 (600円)	400円 (300円)	1,000円	1,000円	600円	300円
コレクション展 歩く、とどまる (仮)	5月23日(土)–10月18日(日)	450円	310円	無料	360円	360円	240円	無料

※ WEB販売チケットは、当館WEBサイトからご購入いただけます(販売開始日は各展覧会によって異なります)。

※ コレクション展は同時期開催の特別展チケットで観覧できます。

広報用画像

画像1～13を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

【使用条件】

※ 広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※ トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※ 情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※ アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。